

7月25日以降、高温によるほ場の乾燥が進んでいます！

- 7月28日発表の1か月予報では「**向こう1か月の平均気温は、高い確率60%**」となっています。
- 管内の**大豆は開花期**となっており、大豆に**水分が必要な時期**を迎えています。
- うね間かん水**を適切に実施して、大豆への乾燥ストレスを軽減しましょう。

<実施事項>**狭畦栽培や培土を実施したほ場ではうね間かん水を実施**

※これからの開花期～子実肥大期(7月下旬～8月下旬)は最も水分を必要とする時期です

☆うね間かん水実施のポイント☆

- かん水は**短時間**で行い、ほ場全体に**水が行き渡ったら速やかに排水**しましょう
- うね間や**額縁排水溝と排水口の連結**を確認し、手直しを忘れず行いましょう
- 今後も**5日以上連続で降雨がなく、うね間が白く乾いたら、葉が裏返る前**にうね間かん水を実施しましょう

**☆干ばつによる大豆への影響☆**

- 根粒の窒素固定活性や光合成、根の養分吸収力の低下が大きい
- 落花・落莢が発生し着莢数が減少する

⇒**これらを回避する対策としてうね間かん水は非常に重要です！**